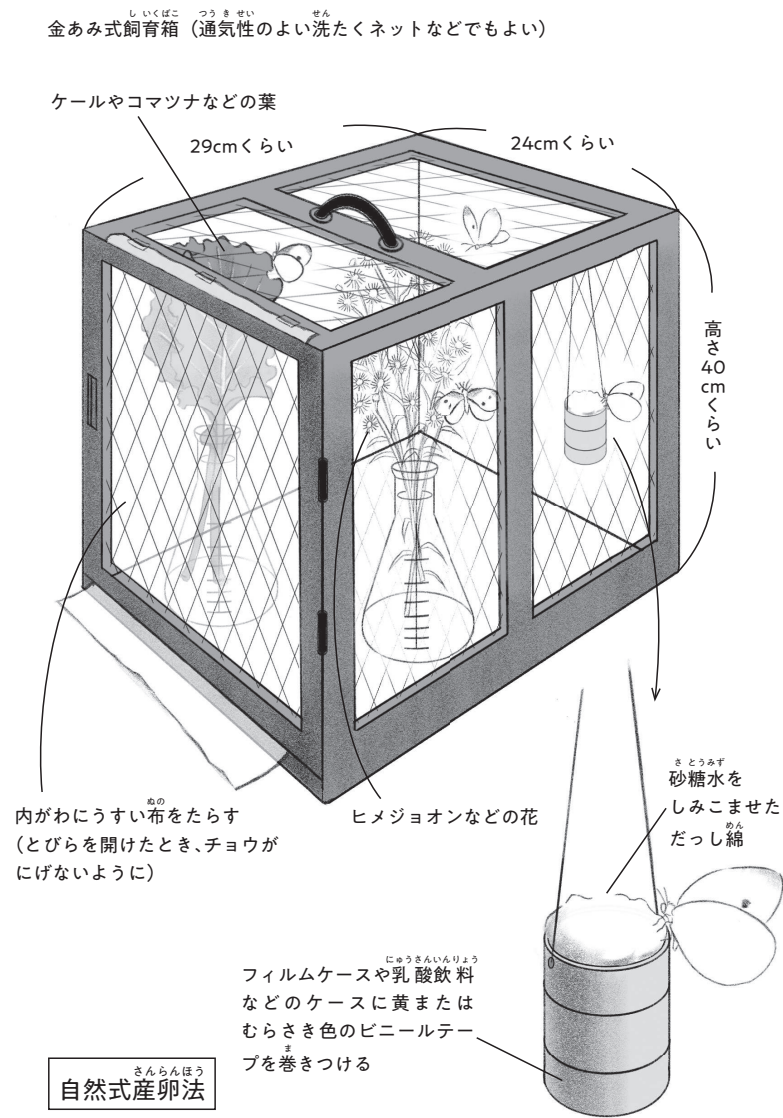


1章	モンシロチョウの一年の暮らし	4
2章	なぜ？ 冬に羽化するモンシロチョウ	14
3章	「ねむりのスイッチ」が入るしくみ	21
4章	モンシロチョウに卵を産んでもらう	27
5章	幼虫百五十匹を飼う	36
6章	羽化を見守る	45
7章	十二時間二十分で「ねむる さなぎ」になる	50
8章	全国の「ねむりのスイッチ」を調べる	60
9章	北は「早寝」、南は「おそ寝」	64
10章	緯度と時間のみごとな関係	73
11章	八重山のモンシロチョウは、ねむらない	81
12章	「ねむりのスイッチ」は、いつオフになる？	90
13章	「ねむりのスイッチ」は、九週間でオフ	96
14章	日本各地のモンシロチョウの冬ごし作戦	109
15章	ふたたび、なぜ!? 冬に生まれるモンシロチョウ	117
16章	かしこいくらし方 ほかのチョウの場合	133
コラム①	モンシロチョウのなかま	12
コラム②	チョウの持ちはこび方	35
コラム③	緯度のあらわし方	80
コラム④	モンシロチョウとスジグロシロチョウのすみ分け	128



自然式産卵法

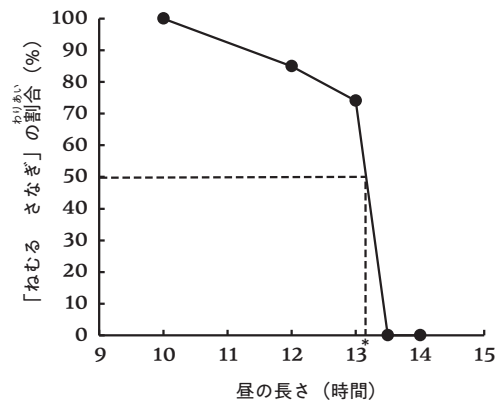
みなさんがもし、同じように産卵させたいと思ったら、わたしののように電灯を使う方法ではなく、自然に産卵させるやり方をおすすめします。

できれば、金あみがはってある観察ケースを用意してひなたに置き、中に産卵のためのケールやコマツナなどの葉を小さなビンの水にさして入れます。そのほかに、ヒメジョオンやハナダイコンなどの花も水にさして入れておきましょう。そうすれば、花に止まって自由にみつをすい、自由にケールやコマツナの葉に卵を産みます。

あるいは、こんな「砂糖水レストラン」を作ることができます。フィルムケースくらいの容器の外がわに、黄色またはむらさき色のビニールテープを巻いておきます。その容器の中に、砂糖水をしみこませただっし綿をふちまでいっぱいにつめこ

らグラフへ水平に直線をのぼし、ぶつ
かったところから、まっすぐたてに、横
じくの「昼の長さ」へ線をのぼしてぶ
つかったところのめもりを見ると……、
やった！ まさに、十三時間十分を示し
たのです。その後、長岡市でのデータも
利用して、さらにくわしい関係式を作
りましたが、「緯度が二度高くなると、
三十分長くなる」という結論は変わりま
せんでした。

とても身近で、よく知っていると思っ
ていた生き物が、こんなひみつを持っ
ていたなんて！



モンシロチョウの幼虫が育つときの昼の長さ（臨界日長）は13時間10分であった（飼育温度は20℃）。

長岡市の緯度は北緯三十七度二十三分で
すので、これまでのわたしの実験から得
られた関係式から計算すると、「ねむり
のスイッチ」のセット時間は、長岡市の
モンシロチョウでは十三時間十分になる
はずです。そこで、おそろおそろ、長岡
市の実験結果のグラフを作成して、かく
にんしてみました。

これまでと同じように、横じくは実験
した昼の長さ、たてじくは「ねむる さ
なぎ」の割合とします。それぞれの点を
線で結んでグラフを作り、「ねむる さ
なぎ」の割合五十パーセントのめもりか

